

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	パネの森 おうじ		
○保護者評価実施期間	R8年1月10日		R8年3月3日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数) 19人
○従業者評価実施期間	R8年1月10日		R8年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4人	(回答者数) 4人
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じた個別支援計画に基づき、日々の療育を実施している点が強みである。支援計画の作成にあたっては、子どもの様子を継続的に観察しながら課題やニーズを整理し、保護者からの意見も取り入れて支援内容に反映している。多くの設問で高い評価を得ており、子どもの成長に応じた支援体制が整っていると考えられる。	日々の活動の中で子どもの様子や発達の変化を観察し、その内容を職員間で共有することで支援方法の統一と見直しを行っている。また、送迎やLINE等を通じて保護者との情報共有を行い、家庭での様子やニーズも踏まえた支援を心掛けている。支援計画はモニタリングや担当者会議を通して確認し、子どもの実態に応じた支援となるよう意識して取り組んでいる。	今後はモニタリングやケース検討の機会をより充実させ、職員間で支援方法や子どもの成長について意見交換を行うことで支援の質の向上を図る。また、記録の整理や支援の振り返りを行いながら、子どもの課題や強みに応じた支援方法を継続的に見直していく。家庭や関係機関との連携をさらに深めることで、より一貫した支援体制を構築していく。
2	活動プログラムが多様であり、子どもが楽しみながら様々な経験を積むことができる点が強みである。5領域を踏まえた療育活動を実施し、日々の活動だけでなく季節のイベントや遠方へのおでかけ、調理体験なども取り入れている。アンケートでも活動内容に対する評価が高く、子どもが主体的に参加できる環境づくりが行われていると考えられる。	活動内容が固定化しないよう、週間プログラムの中に日替わりのプログラムを取り入れている。また、子どもの興味や得意なことを踏まえながら活動を計画し、楽しみながら社会性や生活力を育むことができるよう工夫している。土曜日や長期休暇には外出活動や体験活動を実施し、日常生活では得られにくい経験ができるよう意識して取り組んでいる。	今後は地域資源や公共施設の活用を検討しながら、子どもが社会と関わる経験を増やしていく。また、活動の振り返りを行いながら子どもの反応や成長を踏まえてプログラム内容を見直し、より効果的な療育活動となるよう改善していく。子どもが安心して挑戦できる環境を整えながら、多様な体験活動の機会を継続して提供していく。
3	保護者との連携を大切にし、日常的に子どもの様子を共有できる体制が整っている点が強みである。LINEによる連絡帳や写真、送迎時の報告などを通して子どもの活動の様子や成長を伝え、保護者からの相談や要望にも対応している。アンケートでも保護者との関係性について高い評価が多く、家庭と協力した支援体制が構築されていると考えられる。	連絡帳やLINEを活用して日々の活動内容や子どもの様子を伝えるとともに、送迎時には保護者との会話を大切にしている。また、面談やモニタリングを通して家庭での困りごとや要望を把握し、支援内容に反映するよう努めている。保護者が安心して相談できる環境づくりを意識し、柔軟に対応できる体制を整えている。	今後は活動の様子をより分かりやすく伝えるため、口頭での対話や具体的なエピソードを活用した情報発信を進めていく。また、保護者向けの交流会や研修会の実施を通して保護者同士の交流や情報共有の機会を設け、家庭支援の充実を図る。保護者と協力しながら子どもの成長を支えていく体制をさらに強化していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日常的な支援の質については高い評価を得ている一方で、子どもの活動の様子や支援の意図が保護者に十分伝わっていない場合があると考えられる。LINEによる連絡帳で情報共有は行っているものの、送迎時の説明が簡潔になりやすく、活動の具体的な様子が分かりにくいと感じる保護者もいることがアンケート意見から読み取れる。	日々の支援や送迎対応の中で、限られた時間で情報共有を行う必要があり、活動の詳細や子どもの変化について十分に伝えきれない場合がある。また、保護者によって求める情報量や内容が異なるため、情報の受け取り方に差が生じている可能性も考えられる。	活動の様子や子どもの発言、成長の様子などを具体的なエピソードとして伝えることを意識し、写真等を活用した情報発信も行っていく。「パネの森だより」やブログ、LINEの内容を工夫し、保護者が活動内容をイメージしやすいようにすることで、支援内容の見える化を進めていく。
2	地域の子どもたちや他施設との交流機会については、保護者にとって活動状況が分かりにくい面がある。アンケートでは「分からない」という回答も見られ、地域交流の取り組みが十分に認識されていない可能性がある。	地域交流の機会は公園活動などで行われているものの、特別な行事として実施しているわけではないため、保護者に取り組み内容が伝わりにくい状況がある。また、地域交流そのものを希望しない保護者もいるため、活動の位置付けが分かりにくくなっていると考えられる。	地域での活動の様子を保護者へ積極的に伝えるとともに、公園活動や地域行事への参加などを通して地域の子どもたちとの関わりを自然な形で取り入れていく。また、活動の目的や内容を説明することで、地域交流の取り組みへの理解を深めていく。
3	保護者同士の交流や家族支援の機会については実施しているものの、保護者によって認識に差があることが見られる。アンケートでは「分からない」という回答もあり、取り組みが十分に周知されていない可能性がある。	保護者会や研修会を実施しているものの、参加できる保護者が限られる場合があり、参加していない保護者には活動内容が伝わりにくい状況がある。また、保護者の生活状況により参加の難しさがあることも要因の一つと考えられる。	保護者向け研修会や交流会の案内方法を工夫し、参加しやすい時間帯や方法を検討していく。また、開催内容や様子を保護者へ共有することで、参加できなかった保護者にも取り組みを知ってもらい、家族支援の充実を図る。